

2021年  
6月14日  
月曜日

学生の皆さんは、大学卒業後どのような手段で生きていくことになるでしょうか。以下の選択肢の中だと、どのような手段を選びますか？

1. 親のスネをかじり倒す。
2. 自身で労働してその対価として賃金を得る（「自身で起業して事業収入を得る」も含む）。
3. 野垂れ死ぬ。

おそらく、ほとんどの人は2を選ぶでしょう。しかし、労働してその対価として賃金を得ることが「当たり前」なことではない」ということを学生時代に常に入れておくことが良いでしょう。

たいていの人間にとっては、生きていくためには「労働」の対価として「賃金」を得る必要があるでしょう。私自身も大学で教育や研究という労働を行い、その対価として大学から賃金を付与されています。これは被雇用者であり、自営業者であれば

加藤 雅俊 教授（企業経済学）

# 生き残りたくための「武器」を 持つ

同様です。しかし、「労働」は保証されていないのです。皆さんの多くは、大学卒業後、企業や役所に就職して、その後ずっと雇用して貰えると思われていますか？それはとても甘い考えです。たいていの学生は、就職自体はどこかには決まるでしょう。しかし、その先ずっと雇用してもらえない保証はありません。そもそも、被雇用先の企業だつてずっと存続している保証なんてありません。就職後数年で潰れるかもしれません。当該産業（業界）自体が将来存在する保証もありません。デジタル・トランスフォーメーション（DX）により業界地図は大きく変わる可能性だってあります。私だつて、この先定年退職まで大学にずっと雇用して貰える保証なんてありません。人間と一緒に、産業や企業にはライフサイクルがあります。誕生する瞬間があれば、遅かれ早かれ終焉が

来ます。終身雇用や年功序列といった日本の経営は今や昔の話です。新型コロナウイルス禍によって、新しい型コロナウイルス禍によって、ますます人の選別が進んでいます。企業は、ただでさえコストのかかる人件費を抑えたいし、限りある予算の下で自社にベネフィットをもたらず優良な人材を求めています。いかなる組織にとつても、能力のない者に賃金を支払いたくはありません。皆さんは、「他人にはない能力やスキル」を持っていませんか？経営戦略の研究分野におけるリソース・ベースド・ビューという考えにもとづけば、企業が「競争優位」を獲得するには、価値を生み出せる可能性があり、他社が持っていない能力を保持する必要があると言われています。つまり、企業にとつての「武器」がなければ、市場で生き残れるような競争優位が得られないということを意味しています。これは企業だけ

に当てはまる話ではありません。我々も「他人ができないような価値を生み出せる人材」にならないければ、世の中で生き残っていかせません。競争優位は一時的では意味がありません。プロに入った野球選手でもドラフト1位の選手が活躍できないのと同じで、入口でトップであったとしても、その後優位な立場を維持できるかどうかわかりません。就職活動が成功したらその後うまく行く保証はありません。

皆さんは、自分にしかない「武器」を持つてください。学生時代あるいは就職後、自身に対して人的資本投資を行って、「持続可能な」競争優位を築いてください。そのために、「後で」は手遅れになります。「今から」動き出しましょう。 ■